

大迫研究 成果報告レター

(大迫町健康フロンティア事業) Vol. 2 (2021年3月作成)



2021 年の健康フロンティア事業

2020年度の大迫健康フロンティア事業は、新型コロナウイルス感染防止対策のため延期となりました。これまで30年以上続いておりますが、このような事態は初めてのことで、新型コロナウイルスについては、まだ油断できない状況が続いておりますが、3密を避けることやマスク着用などを基本とする感染対策が有効であることも明らかになってきたため、2021年度からはフロンティア事業を再開することとなっております。細心の注意を払って実施しますので、ご参加のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



大学の取り組み（大迫研究の成果）

コロナ禍の状況は続いておりますが、大学ではできることをしなければと考え、皆様から同意の上でいただいた大切な健康情報を解析しております。最近、世界へ報告した新たな研究結果を下記のご紹介いたします。

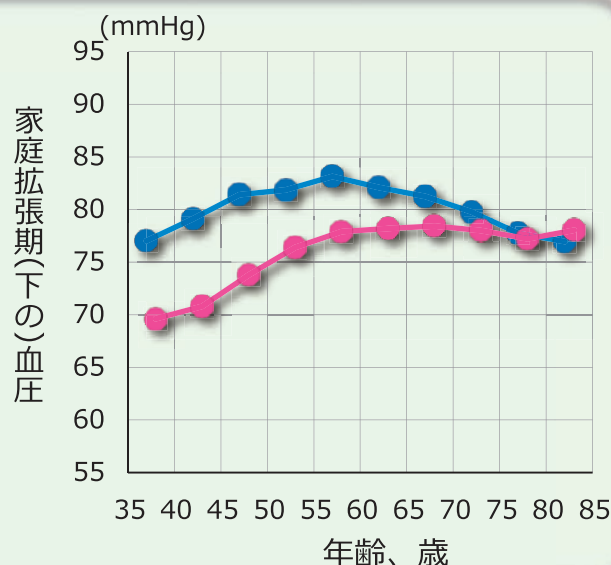
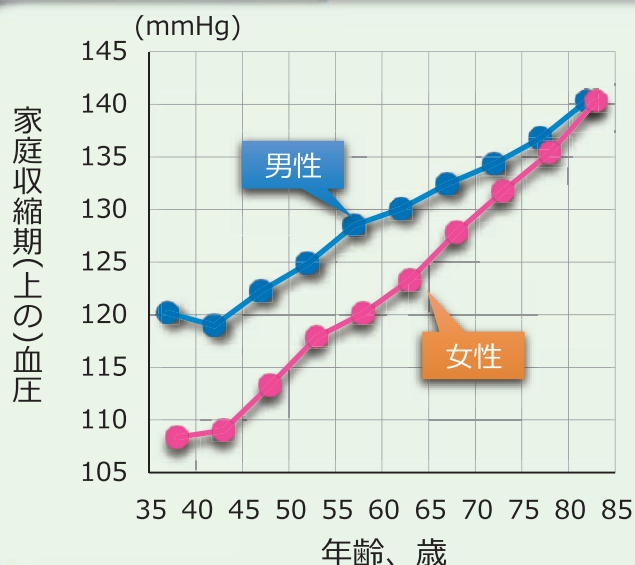
なお、現在も、帝京大学が中心となり、東北大学、東北医科薬科大学、岩手医科大学、秋田大学などのその他多くの大学機関の協力も得て継続しております。

年齢と共に上の血圧と下の血圧はどうなる？



一般の高齢の方々から聞かれるのは、「下の血圧は大丈夫なんだけど、上の血圧は高いのよねえ」という言葉です。一方で、若い hypertension の方々から聞かれるのは、「上は低いけど、下の血圧が低くならないんだよ…」という苦悩の声です。高齢の方と、若い方では上と下の血圧はどう違うのでしょうか。

大迫研究では、長年にわたって家庭血圧を測定いただいております。その家庭血圧の値を“加齢の変化”という視点で分析しました。



左の図を見ると、上の血圧は加齢とともに直線的に上昇しています。「若いときは血圧低かったのに…」という声が女性で多いように感じますが、特に女性の方が上昇速度が速いことがわかります。一方、右図を見ると、下の血圧は、特に男性で60歳を境に低下しています。つまり、上と下の血圧の差である“脈圧”は、60歳以降に広がっていきませんが、これは動脈硬化の影響といわれており実はあまり嬉しい現象ではありません…。長期の家庭血圧情報から、これらの加齢に伴う血圧推移を見られるのは世界でもこの大迫研究しかありません。

(文責：東北医科薬科大学医学部 衛生学・公衆衛生学教室 助教 佐藤倫広)

※「かわいいフリー素材集 いらすとや」<https://www.irasutoya.com/>のイラストを使用しております。

大迫研究関係者からのご挨拶



本事業へご参加および大迫研究へご協力いただいた住民の方のおかげと心より感謝いたしております。大迫で診療と研究を行っている医師は私の門下生です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人 東北 hypertension 管理協会 理事長 今井 潤

私が大迫町に初めて来たのは1998年です。町内に病院があった頃には毎月のように日当直のために来ておりました。この度、2020年より大迫地域診療センターで月数回診察をさせていただいております。下記の当教室スタッフと共に、家庭血圧測定事業や検診業務を継続し、大迫町住民皆様の健康を少しでも支えられるよう尽力して参りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

東北医科薬科大学医学部衛生学・公衆衛生学教室
教授 目時 弘仁（めとき ひろひと）



MRI検診では、歯科医師として東北大学歯学部と共に歯科検査を担当しております。お口の健康は、全身状態に影響することが分かっていますが、結構おろそかにされがちな部分です。検診等でお会いした際には、歯について疑問に思ったことをお気軽にご相談下さい。

東北医科薬科大学 同教室
助教 村上 任尚（むらかみ たかひさ）



私は10年以上、家庭血圧測定事業や各種検診で大迫町の皆様にお世話になっております。医療資格としては薬剤師ですが、過去には今井先生の診療補助や、何度か健康に関わるお話を皆様の前でさせていただいたこともありました。本レターの執筆者でもあります。どこかでお会いすることがあると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

東北医科薬科大学 同教室
助教 佐藤 倫広（さとう みちひろ）

【大迫研究代表責任者より】

本年度は新型コロナウイルスの影響で検診等ができませんでしたが、2021年度からは何とか再開いたします。

感染防止対策でご不便おかけするかもしれませんが、家庭血圧測定事業と各種検診に是非ご参加いただければと存じます。

帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座
主任教授 大久保 孝義

